

京都教育大学 F D ニュース

No. 59

2011年5月30日

F D 委員会

平成22年度後期の学部授業アンケート結果について

後期授業アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。結果をご報告いたします。

実施期間：平成23年1月7日（金）～26日（水）

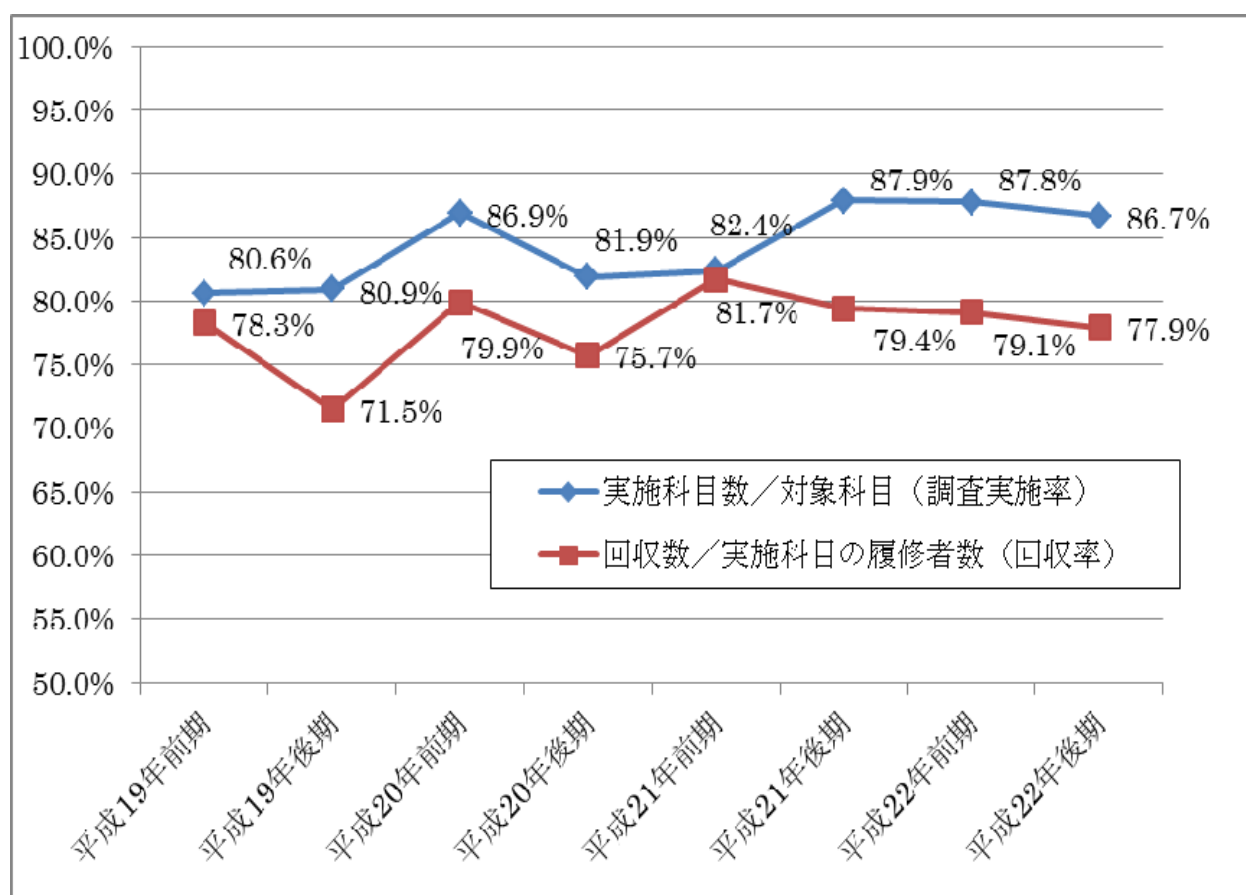
対象科目数：392

実施科目数：340（実施率 86.7%）

実施科目の履修者数：11,950名

回答者数：9,305名（回収率 77.9%）

下表をもとに、過去4年間の実施率および回収率は、概ね8割程度で推移し、FDに対する関心や理解がある程度得られ、定着しつつある事がうかがえます。ただし、個々の授業内容による諸事情を考慮に入れても、今後、実施率や回収率をさらに高めていくことが求められます。



【結果の概要】

(1) 項目別の回答分布一覧

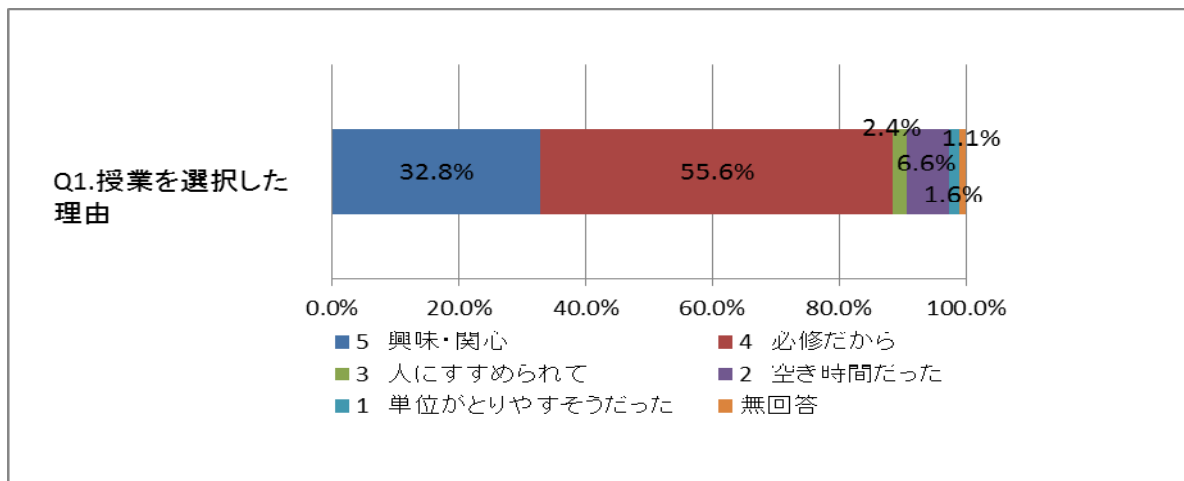
項目別の回答分布一覧を以下に示しています。平成 22 年度後期授業アンケートより、項目表現に一部変更をおこないました。Q13「教員免許を取得予定の受講生のみ答えてください」という条件は現状に照らして削除し、また Q14 および Q15「外国語科目の受講生のみ答えてください」という回答対象の限定もまた集計分析で区分が可能であることから削除し、全設問が全科目回答対象となるよう変更しました。またそれに関連して、Q14 の設問では、従来の「テキスト」に「(配布資料など)」という表現を加えました。

なお、20 項目中、Q16～Q20 を教員追加設問としていますが、使用率はきわめて低くなっています。今後、必要に応じてご活用いただけたらと考えています。

項目別回答分布(人数と平均値)	5	4	3	2	1	無回答	標準偏差	平均	全体平均
Q1. 授業を選択した動機	3,416	5,782	246	685	165	114			
Q2. シラバスを参考にしたか	1	1,439	3,851	2,003	1,958	53	1.0	2.5	2.5
Q3. これまでの出席状況	0	3,882	4,542	794	43	44	0.6	3.3	3.3
Q4. 授業時間外の学習	0	947	2,152	2,927	3,238	41	1.0	2.1	2.1
Q5. 意欲的に取り組んだか	0	2,404	5,108	1,404	333	56	0.7	3.0	3.0
Q6. 難易度は適切だったか	0	2,570	5,273	1,144	267	51	0.7	3.1	3.1
Q7. 授業は難しかったか	0	1,212	5,797	2,052	171	73	0.6	2.9	2.9
Q8. 担当教員の熱意を感じたか	2	4,073	4,485	548	146	51	0.7	3.3	3.3
Q9. 授業は体系的であったか	0	3,007	4,908	1,059	278	53	0.7	3.2	3.2
Q10. 説明はわかりやすかったか	2	2,795	4,690	1,418	330	70	0.8	3.1	3.1
Q11. 授業の満足度	0	3,003	4,936	1,079	250	37	0.7	3.2	3.2
Q12. テーマ・領域に興味を覚えたか	0	2,905	4,817	1,164	376	43	0.8	3.1	3.1
Q13. 教員になる意欲や動機	0	1,854	4,417	2,102	856	76	0.9	2.8	2.8
Q14. テキストのレベル	1	730	5,493	2,344	234	503	0.6	2.8	2.8
Q15. 授業の進む速度(進度)	0	547	5,550	2,605	111	492	0.6	2.7	2.7
Q16. 教員追加設問	4	68	100	29	7	9,097	0.8	3.2	3.2
Q17. 教員追加設問	4	54	45	12	1	9,189	0.8	3.4	3.4
Q18. 教員追加設問	0	22	39	32	13	9,199	0.9	2.7	2.7
Q19. 教員追加設問	0	5	36	32	5	9,227	0.7	2.5	2.5
Q20. 教員追加設問	0	6	11	7	7	9,274	1.0	2.5	2.5

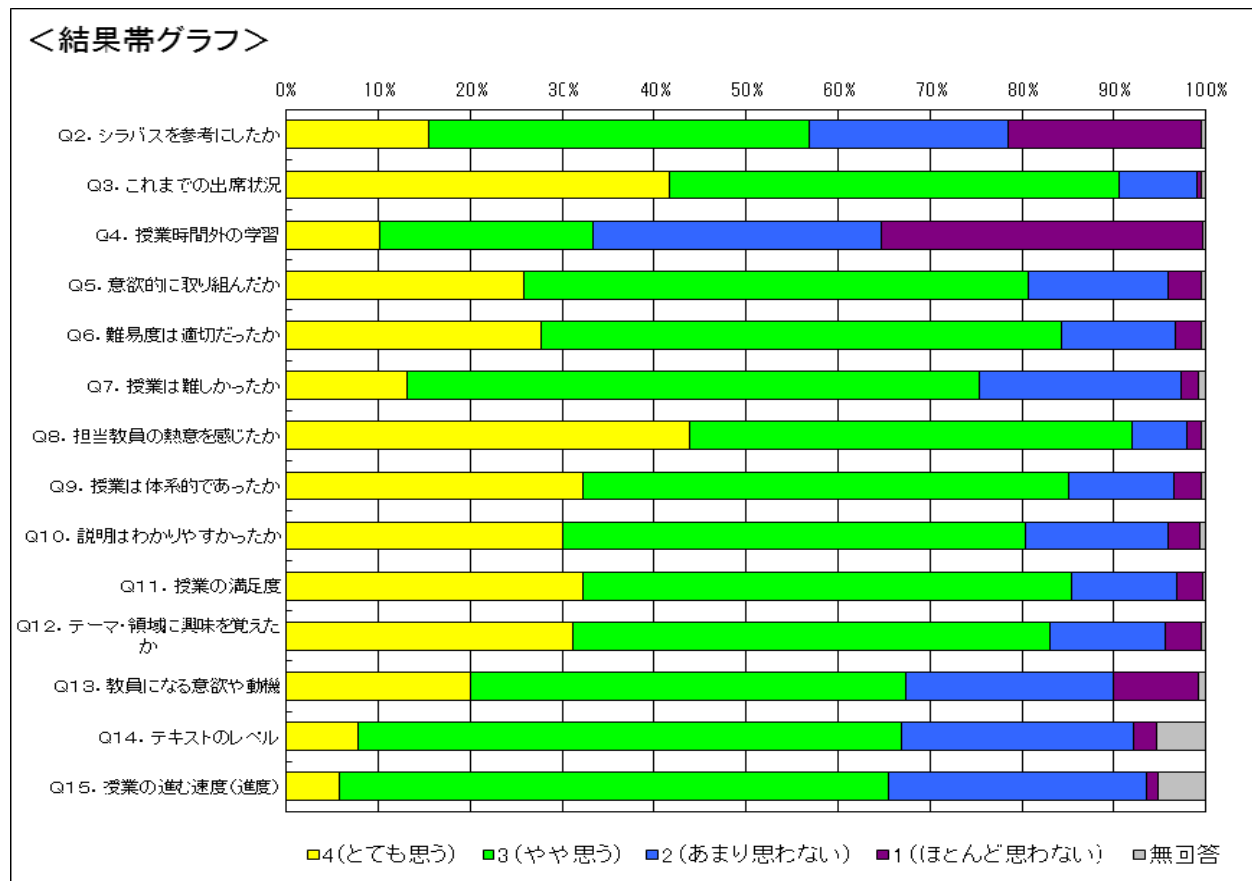
(2) Q1「授業を選択した動機」について（複数回答 N=10408 を 100%に換算）

「授業を選択した動機」については、「必修だから」、「興味・関心」にもとづく理由が比較的多くなっています。



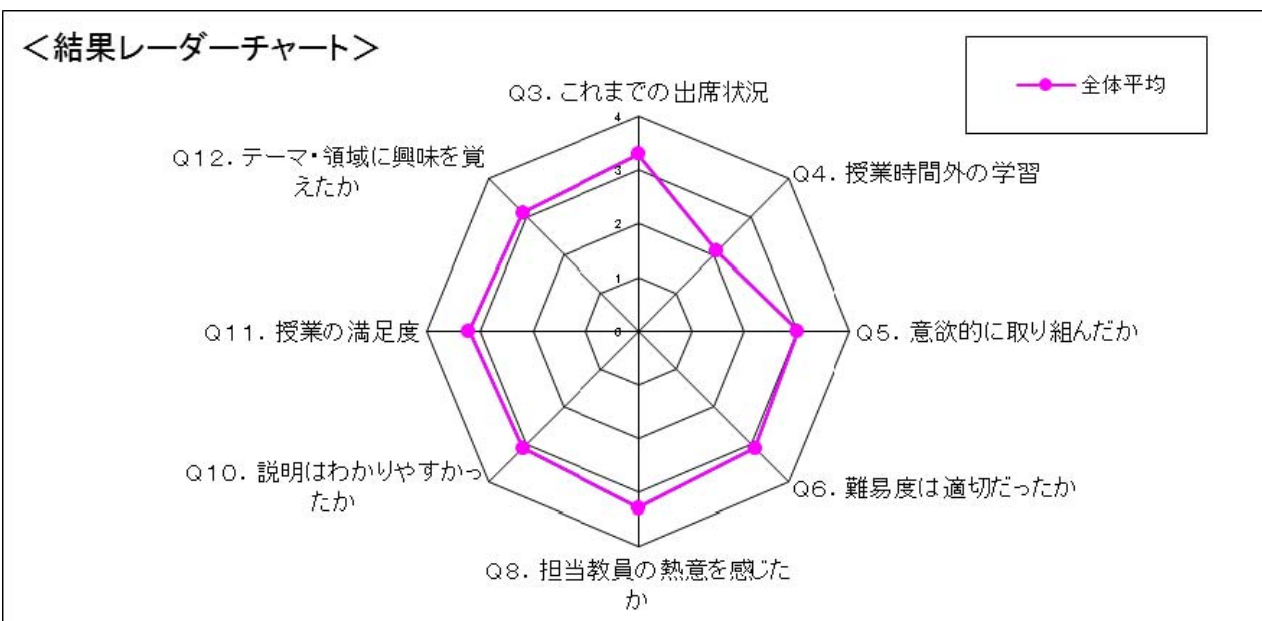
(3) Q2～Q15の集計結果について

Q2～Q15の集計結果の分布は下記の通りです。いずれの項目においても「やや思う」という回答が多い傾向にあります。ただし、Q4「授業時間外の学習」については、学習時間があまりとられていない様子もうかがえます。



(4) 各項目の比較検討

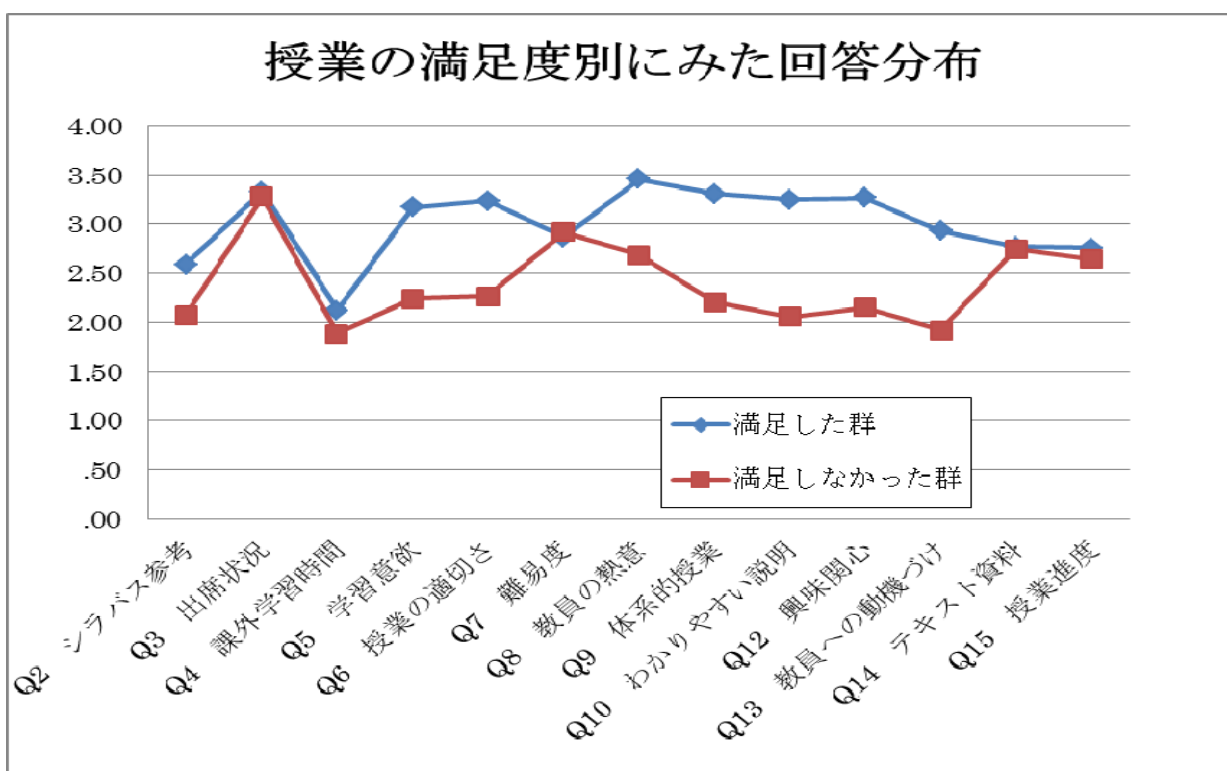
下記は、Q3～Q12の各項目（Q7、Q9を除く）の結果をレーダーチャート化したものです。各項目の平均得点の分布は、過年度と変わらず、全体の傾向に大きな変化はみられませんでした。



(5) 授業の満足度別にみた学生の意識・意欲

下図は、Q11「授業の満足度」を2群に分けて、「4 とても満足」「3 やや満足」の満足した群と、「2 やや不満」「1 とても不満」の満足しなかった群の間で、Q2～Q15の回答にどのような差異があるかを平均値比較でみたものです。

その結果、平成22年度前期授業アンケートと同様に、Q8「担当教員の熱意」、Q9「授業が体系的であったか」、Q10「説明がわかりやすかったか」、Q12「テーマ・領域に興味を覚えたか」、Q13「教員になる意欲や動機」において、満足した群のほうが有意に高くなっています。担当教員の熱意を感じ、授業の説明がわかりやすく体系的であると理解し、テーマや領域に興味関心をもつことが授業の満足感につながる事が明らかとなりました。



以上の調査結果から浮き彫りとなったことを参考に、今後の授業改善に役立てていただければ幸いです。

【図書紹介】ノエル・エントウイスル著（山口栄一訳）『学生の理解を重視する大学授業』玉川大学出版部、2010年（ISBN-10: 4472404192）。

「理解とは何か」についての検討をもとに、大学での授業のあり方が模索されています。その際、大学教育の科目一般を取り上げるのみでなく、「教科特有の論理とその教授法」にも配慮しながら具体的な事例タイプが検討されており、興味深い著作です。

FD委員会では、今年度も、授業アンケートの実施のほか、研修会の実施を予定しています。今後ともご協力くださいますよう、お願いいたします。

 問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：安東（委員長）、杉井（副委員長）、巻本、山口（博）、樋口、事務担当：教務課 高松、大谷